

[IV] 「アンケート調査並びに最終試験の 回答集計の方法」について

既に、「研究計画」の中で強調しておいたように、本年度の「番組制作改善研究」の全期間を通じて、「アンケート」の送受信業務、回答用ハガキの回収・整理・分析業務、さらに、それらの回答に対する個人別回答状況のフィードバック業務等、極めて煩瑣な業務の省力化と効率化を図るため、常時、コンピューターの活用を考えてきた。特に、回答の集計に果したコンピューターの役割は、極めて大きかった。

そういうわけで、特に、一項を設けて、「回答集計の方法」について報告しておきたいと考えた次第である。

なお、この報告に必要な関係資料は、すべて、一括して、巻末の付属資料[Ⅲ]に記載したので、それらを参照されたい。

(1) 処理の流れ

今回の調査におけるデータ処理の流れは、付属資料[Ⅲ]の別表①のとおりである。特別モニターについて行ったアンケートと、最終試験として行った共通アンケートは別の手順であるが、その内容はかなり共通性がある。

モニターを選択する際、後で集計等に利用するためその属性を別表②のように分類しコード付けを行った。この属性コードと氏名、受講生番号等を問題の発送時まであらかじめ入力し、それをフォーマット変更して受講生ファイルを作成した。

モニターから送付された答は、締切後直ちに入力して、モニターに返送するための集計結果表、研究班に必要な帳票等をその日のうちに作成した。特別モニター用アンケートの最終結果あるいは最終試験の結果について多少の分析を行ったが、そのための計算に数日を要している。

なお、発表、あるいは、報告書作成のため、ここで得られた数値に基づき、グラフ作成用のソフトウェアを利用して図表化を行っている。

(2) パソコン処理の概要

処理の概要については、別表③にまとめている。構成は主記憶256 KB、ディスクドライブ3台、JIS キーボード、1066×725ドットの単色 CRT ディスプレイ、最大幅 B 4 横（単票）のプリンターからなっている。この装置により文書作成や回答のデータ処理を行った。データ処理において使用したプログラムのうち、受講生の属性ファイルの作成とグラフ表示は、市販ソフトウェアを使用した。あとは、すべて、BASICにより作成している。

データ処理を行う上で、各種の制約があったが、第一に、パソコンを操作する上で、初心者でも簡単に扱えること、次に、出力帳票をそのまま資料にするため、B 5 縦書に統一し、かつ、表示を見易いものとするため、漢字を使用したことがあげられる。

調査が進むにつれ、様々な要望が集まり、特別モニター用のアンケートの途中経過を表示すること、最終試験として共通アンケートを行う等の追加処理が生じた。しかし、当初の設計から大幅に変更しなくとも実行が可能なものに帰着できたため、比較的短期間に対応はできた。

(3) パソコン操作の実際

データ処理の一例を、実際に表示した画面に従って説明する。別表④-1 は、特別モニターへのアンケートに対して行う処理の内容である。1.はモニターの回答を毎週入力する場合に選択し、2.は1.の終了後、その結果をプリントする場合、そして3.は15回のアンケートが終了した後に必要な帳票を作成する場合に使用する。そして1.の選択で次画面は別表④-2に、2.の選択で別表④-4になる。別表④-2の画面で、番組名とその回数を指定し、正解を入力する。続いて別表④-3に移り、個人の属性が1人ずつ表示され、回答を入力すると直ちに判定を行う。これを繰り返し全員の入力が終了すると別表④-1に戻る。さらに別表④-4でプリントする内容を指定すると別表⑤のような個人別帳票が出力される。

なお別表④-1で3.の最終処理を選択した場合に、巻末付属資料 [I] の①、③、④、⑥といった帳票が出力される。